

平成30年第1回網走市総合教育会議議事録

1. 開催日時 平成31年2月26日(火)
開会 15時30分
閉会 16時30分
2. 開催場所 網走市役所西庁舎2階会議室
3. 協議事項
 - (1) 学力の現状と課題について
 - (2) コミュニティ・スクールの導入について
 - (3) 学校における「いじめ」の現状について
 - (4) ラグビーワールドカップ2019 キャンプ受け入れについて
4. 出席委員
網走市長 水谷 洋一
網走市教育委員会
教育長 三島 正昭
委員 富永 雄一(教育長職務代理者)
委員 杉本 匡規
委員 中山 真弓
委員 益村 公人
5. 会議に出席した事務局職員
学校教育部長 田口 桂
社会教育部長 猪股 淳一
学校教育部次長 大西 篤
社会教育部次長 岩本 博隆
学校教育課長 永倉 一之
社会教育課長 吉村 学
スポーツ課長 鈴木 聡
図書館長 児玉 卓巳
博物館長 米村 衛
美術館長 古道谷 朝生
企画総務部参事 北村 幸彦
(企画総務部長代理)
学校教育課庶務係長 松原 幸信
6. 傍聴者 なし
報道機関 1社
7. 議事の経過 別紙のとおり

田口学校教育部長 定刻になりましたので、ただ今から平成 30 年度第 1 回網走市総合教育会議を開会いたします。開会にあたり、水谷市長から挨拶があります。

水谷市長 開会あいさつ

田口学校教育部長 この後の議事の進行につきましては、網走市総合教育会議設置要綱より議事の進行は市長をもって充てるとありますので、水谷市長にお願いします。

水谷市長 それでは、協議事項 (1)「学力の現状と課題について」を事務局から説明願います。尚、説明は、着席のままで結構です。

大西学校教育部次長 網走市の児童生徒の学力の状況並びに、学力向上の取組につきまして、「平成 30 年度 全国学力・学習状況調査結果」からご説明申し上げます。資料 1 ページをご覧ください。今年度は、小学校 6 年生 260 名、中学校 3 年生 285 名を対象に 4 月 17 日に実施しました。1 ページには、「各教科の平均正答率」の表と「レーダーチャート」、「平成 26 年度以降の全国平均との差の推移」を掲載しております。今年度の平均正答率を全国との差で見ますと、小学校では、3 教科とも全国平均を下回りました。中学校では、「国語 B」で全国平均を 0.6 ポイント上回り、「国語 A」で全国と同様になっております。下段の「網走市と全国の平均正答率の差」をご覧ください。調査問題は毎年異なり、平均正答率を年度間で比較することができませんので、全国平均を 100 とした時の網走市の平均正答率で比較しております。今年度の中学 3 年生は、平成 27 年度に小学校調査を受けた学年になります。国語、算数、理科ともに、全国との差が縮小していることがわかります。続いて 2 ページの「児童生徒質問紙調査」のレーダーチャートをご覧ください。「学習習慣・生活習慣」ですが、特徴としては、「学校の授業時間以外に普段 1 時間以上勉強する」が、全国に比べ低い傾向を示していることがわかります。今年度の児童生徒に見られた課題ではなく、継続している課題となっております。「学校の授業の予習・復習をする」と回答する児童生徒が全国よりも多いところは、昨年度と同様であり、復習を中心とした宿題の取組が進んでいることがわかります。3 ページの自尊意識・規範意識の特徴としては、小学校、中学校ともに「人の役に立つ人間になりたいと思う」「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思う」で全国より高い傾向を示しました。また、中学校では、「自分にはよいところがあると思う」「先生はよいところを認めてくれていると思う」が全国に比べ高い傾向を示しました。各学校が、自尊感情を高めるための取組を重点化している成果が表れてきているものと考えております。自尊意識、規範意識の項目については、年度によって特徴が異なり、網走市の特徴・傾向という見方ができないところもありますが、「全国より良い傾向」であるかどうかではなく、「そう思う」と回答できる児童生徒がより多くなるように取組ん

でいく必要があると受け止めています。3 ページ下段は、「網走市教育委員会における学力向上の方策」について、7 点について記載しております。これまで、子どもたちの学力向上を図るため、網走市として学習支援員の配置、図書館司書の配置、実物投影機などの I C T 機器の整備、授業改善のための教職員研修の実施等に取り組んできたことで、子どもたちの学力は、教科、領域によっては課題が見られる状況がありますが、経年比較では改善の傾向は見られております。学力の課題やこれまでの取組の成果を学校、家庭、地域と共有するとともに、児童生徒一人一人が確かな学力を身に付けるための取組をさらに充実させていきたいと考えております。以上で説明を終わります。

水谷市長 ただ今、事務局の方より協議事項（1）につきまして説明いただきました。ご意見、ご質問等いただければと思います。

三島教育長 網走市としても様々なことに取り組んできております。学習支援員における少人数学習や、I C T 環境整備など、教育環境は、以前よりかなり整ってきたと思います。全国学力・学習状況調査の結果は、良い年、悪い年とありますが、右肩上がりになってきていると思います。学力向上には、学校だけでなく、家庭も一緒に取り組み、家庭学習の時間等もとっていただく等、同じ考え方に立ち、学校、家庭、保護者で取り組む必要があると思います。これからコミュニティ・スクールの導入もありますことから、地域の方の力も頂きながら一緒になって進んでいければと考えております。

杉本委員 学校教育に対し、非常にしっかりとした予算もいただいでる中で、5 年程前は、子どもたちの自己肯定感が非常に低かったが、上がってきていると思います。学力と自己肯定感は、密接に関連していると思いますので、ここも教育委員会で取り組んできた事の一定の成果と思います。

水谷市長 予算の関係から申しますと、I C T 関係教育機器でここ数年、大きな金額を付けております。これが、学力とどのようにパラレルな関係かはわかりませんが、教える先生のみなさんも教えやすくなっているというような所の評価は、学校としては、どうでしょうか。

三島教育長 例えば、実物投影機という機械を全クラスに整備させていただきましたが、以前は、プリント等の資料を個々に配布をして来ていたものが、これにより 1 枚のプリントを大きくして映し出すとか、子どものノートをそのまま映し出し共有できるといったことも出来、先生方にとっては、準備も含め、非常に有効な活用が進められていると思います。

富永委員 学校教育の義務教育は 9 年間、高校を含めても 12 年間ですが、その中で

家庭の教育が占める時間は長いと思います。親、保護者への教育も考えなければならぬ点もあると思います。

水谷市長 家庭へのアクセスは、どのようになりますか。

三島教育長 学校単位で、保護者に対し情報を発信し、個別の部分についても、家庭訪問などで、保護者とともに進めております。

中山委員 学校の先生方が、放課後等も補習等してくれるなどの結果が、良い結果に繋がってきたと思いますが、これに対し、家庭学習時間が少ない等の点から、保護者教育、保護者に対し、どうアピールしていくか考えていかなければと思います。

三島教育長 保護者の方より、家庭での学習は、どのように進めればよいかわからないといった意見もあります。例えば、まずは宿題を行い、その後、今日は算数といったように具体的に提示してあげた方が良いのではという話もありますので、対応していきたいと思います。

水谷市長 それでは、協議事項1についてよろしいでしょうか。
（「よろしいです」との声）

次に協議事項（2）「コミュニティ・スクールの導入について」を事務局から説明をお願いします。

永倉学校教育課長 コミュニティ・スクールの導入の目的ですが、子どもたちを取り巻く環境や学校の抱える課題についても益々複雑化・困難化しており、子どもたちの教育環境を充実させ、信頼される学校づくりを進めていくためには、地域住民等の協力を得て、社会総がかりで教育の実現を図っていくことが必要となってきています。網走市においても、コミュニティ・スクールの導入することにより、学校と地域住民等が、「9年間でどのような子どもたちを育てるのか」、「地域でどのような教育を実現していくのか」という目標やビジョンを共有しながら、地域と一体となった特色ある学校づくりを推進していきたいと考えているところです。具体的に何をするかですが、コミュニティ・スクールでは、保護者や地域住民で構成される「学校運営協議会」を設置し、校長が作成する学校運営の基本方針を承認したり、教育活動について意見を出してもらいながら、目指す子ども像を共有し、様々な取り組みを進めていくものです。コミュニティ・スクールの導入により期待される効果ですが、多くの大人の専門性や地域の力を生かした学習機会が得られるなど、子供たちの学びや体験の充実が図られます。学校の現状や運営方針について理解が深まり、地域住民等が学校の応援団となるなど、

学校運営の活性化が図られます。学校と一体となって、地域の担い手のなる子どもたちを育成しようとする機運が高まるなど、学校教育への参画による地域の活性化が図られます。コミュニティ・スクール運営・導入に向けた取組ですが、平成 31 年度実施地域は①白鳥台小学校・東小学校－第四中学校、②西が丘小学校－第五中学校、③呼人小中学校・学校運営協議会委員の選任・学校運営協議会の開催。平成 32 年度導入地域は④西小学校・中央小学校－第二中学校 ⑤網走小学校 ⑥潮見小学校 ⑦南小学校 ⑧第一中学校 ⑨第三中学校 の 5 校については、単独校として設置していきます。このように、地域の子どもたちのために、学校と地域が連携・協働した活動を推進していくこととなります。

平成 31 年度は、各小・中学校が、保護者、地域、関係機関との連携による教育活動を推進しており、いずれの学校も地域との協働による学校運営の実績があります。その中でも、平成以降の学校再編により統合を行った小規模校は、地域との組織的な連携・協働体制が構築されているものと認識しています。以上のことから、第四中学校区、第五中学校区及び、呼人小中学校を「地域と共にある学校づくり」のモデル地域として、平成 31 年度からのコミュニティ・スクール導入に向けた取組を進めます。

平成 32 年度は、上記以外の学校は、平成 32 年度からの導入に向けた取組を進める。平成 31 年度からの導入が可能な学校においては、平成 31 年度導入予定校と同様の取組を進めます。

三島教育長

網走の場合は、中学校を核として、連続する小学校とともに 1 つとして作成しておりますが、全道的に見ますと、各学校 1 つの運営協議会があるといった形になっております。網走の場合、地域の特性も考え、小中の 9 年間でその地域の方とともに育てるといった方が良いと判断し、進めております。実際にも、すでに地域の方が、見守りなど協力いただいております。ただ市内の学校においては、地区が入り組んでおりますので、単体で運営協議会を設置し、全体を統括するような協議会等も視野に入れながら検討していきたいと思っております。

水谷市長

私も同感であります。先日、向陽地区のコミセン懇談会で小中高の校長先生が、町内会長と民生委員とおやじの会とともにおりました。各校長は、地区の方に、学校運営方針や避難場所機能、通学路の安全確保等の懇談をしておりました。これは、今に始まったことではなく、昔から行っていることだと思いますし、すごいと思いました。地域と学校の連携については、昔からある町なんだと感じました。富永委員の北浜については、こういった流れは、日常的事業かと思いますが、いかがですか。

富永委員

そうですね。私の子どもは、白鳥台小、四中にお世話になり、わたしも PTA 等をやっていました。この地区は、東部 3 校連絡協議会というのがあ

り、各行事や給食会など交流もあり、スケート大会や教員の送別会等も合同でやっております。ですから、地域で学校づくりの意識は、昔からあると思います。

水谷市長

杉本委員いかがですか。

杉本委員

コミュニティ・スクールが出てくる前から、地域で子どもを育てましようというのは、あったと思います。とくに富永委員のお話にあったように、東部、西部においては、入学式、卒業式を見ただけで、地域一体感が分りますが、まち場の小中校においては、少し難しいかとも思います。町内会がしっかり機能しているところはマッチしてくると思います。最近、町内会も希薄になってきておりますので、心配な面はあります。コミスクの説明会に行った時、いいなと思ったのが、学校側からどうかと提案できる点です。避難訓練等参加しませんかとか地域に発信できる。学校が、地域にどう投げかけていくかということが大事だと思います。

水谷市長

向陽の取組は、まさにそういうことだったと思います。これによりコミュニケーションがとり易くなると思います。

三島教育長

向陽については、そのとおりで、すでに取り組んでいただいている部分が大きい。コミュニティ・スクールができることで、子どもたちの登下校における行動や休みの行動等に、地域の方の見守りも期待できます。

益村委員

弊社は、西小学校の付近ですが、朝、子どもたちが挨拶をしてくれる。しっかりしている。コミュニティ・スクールの仕組みにより、地域の見守りにより学校では学べない事であったり、あいさつ等の道徳教育にもつながると思います。すぐには成果が見えないかもしれませんが、素晴らしい仕組みになると感じます。

水谷市長

私も首長会議等で、この件について話合う機会もありますが、コミュニティ・スクールを導入困難な地域も実際に存在しています。国の方針もあり行うべきなのですが、地域の事情により困難なところもありますが、当市においては、こういった下地盤もあり、導入しやすい環境と思いますので、今後一層充実を図る取り組みをお願いいたします。

それでは、協議事項2についてよろしいでしょうか。

(「よろしいです」との声)

次に協議事項(3)「学校における「いじめ」の現状について」を事務局から説明をお願いします。

大西学校教育部次長 学校における「いじめ」の現状についてご説明申し上げます。

まず、いじめの認知件数について別紙の資料をご覧ください。平成30年度は、1月末現在、小学校で2件、中学校で17件、合計19件をいじめとして認知し、「学校いじめ対策組織」を機能させて解消に向けた取組を行いました。各学校においては、全教職員が「いじめほどの学校でも、どの児童生徒にも起こり得る」との共通理解を図るとともに、暴力を伴わないものであっても、意図せずに相手の心身に苦痛を感じさせてしまい、いじめにつながる場合があることや、被害・加害の関係が比較的短期間で入れ替わることがあることなどを十分理解の上、未然防止、早期発見、早期対応に向けた取組を進めております。教育委員会においては、いじめ根絶に向けた組織的な取組の推進について、毎月の校長会議で啓発しているほか、各学校への「いじめ撲滅看板」の設置、「網走市子ども会議」の開催、「豊かな心を育てる小中学生の意見発表会」などの取組を行っております。このうち、「網走市子ども会議」について、資料の7ページをご覧ください。「網走市子ども会議」は、小・中学校の児童会や生徒会等が、いじめ問題の解決や人間関係づくりに取り組んだ内容の交流や、いじめの根絶・命の大切さなどについての意見交換を通して、各学校における望ましい人間関係づくりの意識の醸成と、いじめ問題への取組の一層の充実を図ることを目的として、平成20年度から開催しています。今年度は、1月26日に開催し、児童生徒がグループ協議において、いじめ防止を啓発するためのスローガンを作成しました。11グループが作成したスローガンを8ページのポスターに掲載し、各学校に掲示し、啓発していくこととしております。市内の各小・中学校では、いじめの防止や、豊かな心の育成に向け、様々な取組が行われています。それぞれ学校の取組が「点」で終わることなく、小学校から中学校へ「線」となっており、さらには、市内全校が「面」となっており、取り組んでいけるよう、取組の改善と充実を図っていきたくと考えております。以上で説明を終わります。

水谷市長 件数の報告もございましたが、これも含め、ご意見ございませんか。

三島教育長 網走市は、いじめ0件を目指そうということで取り組んできております。子ども会議につきましては、各学校から代表者が参加してもらい、他の学校での取り組み等について意見交換を真剣に行っております。こういったことは、自校に戻り、これを参考に自校の児童会、生徒会を中心に学校全体として取り組んでおります。また、学校の対応は、様々ですが、いじめは、絶対に許さないといった基本をもとに、校長を通じ、先生方にも日頃から、小さな事でも見逃さないよう、対応して欲しいとお願いを続けており、浸透してきております。全国的には、大きな事件も起きております。当市においては、大きな事件にはなっておりませんが、いつどうなるか、わかりません。日頃よりいじめが起きないような意識付が大切だと思いま

すので、学校、地域、社会も含め、取り組んでいきたいと思っております。

益村委員 資料8 ページの内容を見て思ったのですが、子どもたちの中での意識は、もちろんですが、先ほど教育長も言われたとおり、親、社会等からの要素もなければ、起こってからの対応になるので、周りからの関わりも大切だと思いました。

杉本委員 当市においては、大きな事件にはつながっていませんが、安堵はできません。起こるのも、対応するのも、まずは、学校ですから、教育委員会と学校の連絡体制が大切だと思います。学校の情報、対応について把握し、問題あれば、指導していくといった関係を密に取り進めて行くしかないと思いますが、網走市においては、取り組んでいると思っております。

水谷市長 いじめは学校現場で起きておりますので、まずは学校ですが、杉本委員が言われたように教育委員会全体として情報の共有化をしながら、大きくならないように、みんなで取り組んでいただきたい。もう一点、益村委員が言われていた、子どもだけでなく、家庭、親のつながりといった部分で、親のかかわりも大切だと思います。私の私見ですが、親が、子どもに「いじめられてないかい」と様子を聞くことと同時に、「いじめてないかい」と聞くことにより事前に防ぐことも大切だと思いますし、家庭の関わり方も重要だと思います。今後、このようなことも教育委員会でも検討いただければと思います。

三島教育長 学校や教育委員会だけでいじめをなくすことは、難しく、家庭も含み、社会全体で行っていかなければ無理だと思います。最近、スマホによるいじめも問題となってきているが、ここは見えづらいが、普段から子どもたちの様子を見ていくしかないと思いますし、親、家庭の見守りが重要になってくると思います。

水谷市長 それでは、協議事項3についてよろしいでしょうか。
（「よろしいです」との声）

次に協議事項(4)「ラグビーワールドカップ2019 キャンプ受け入れについて」を事務局から説明をお願いします。

鈴木スポーツ課長 「ラグビーワールドカップ2019 キャンプ受け入れ」について説明をいたします。資料4の9ページをご覧ください。写真につきましては、この資料にとじこんでいるものが見ずらいため、別にお配りした資料4の2をご覧ください。最初に「キャンプ地決定」の経過ですが、平成30年4月20日、ラグビーワールドカップ2019 組織委員会から、「フィジー代表チームの公

認キャンプ地」の発表があり、また、7月25日には、日本ラグビー協会により「日本代表チームの事前キャンプ地」について、発表がなされました。会見時の写真を資料4の2の11ページに掲載しています。次に、資料9ページ2番目の「これまでの取り組み」についてですが、代表チームの受け入れに関しては、大会の機運を盛り上げ、市民の応援ムードを高めることが必要であるため、まず、「ラグビーワールドカップの代表チームが網走で合宿をすること」について、PR活動を行いました。

「周知用品 作成」では、各品目によるPR活動の内容を記載しています。資料4の2の11ページに各周知品目の写真を掲載していますので、そちらをご覧ください。まず、上段の右側、「フィジー代表の公認キャンプ地PRの横断幕」です。本庁舎正面の壁に設置しているもので、今年の大会終了まで設置する予定です。その下の写真は、「日本代表の事前キャンプ地をPRする看板」で、合宿の日程を掲載し、本庁舎の前庭に設置しています。その下の写真は、総合体育館前に設置している「両代表チームの網走合宿をPRする看板」です。次に12ページ、「公認キャンプ地PRのぼり」です。大きいサイズの「のぼり」は、公共施設、道の駅などに設置しているほか、イベント時のPR素材として利用しております。「小さいのぼり」は、庁舎内の窓口カウンターや、市内のホテルカウンター等に配付し、PRをお願いしております。次にその下の「PRポスター」については、各公共施設、市内の小中学校、商店街、各コミセン、スーパーなどに配付しております。その右横に掲載している「公認キャンプ地PRペナント」は、50枚作成し、アプト4のアーケードに設置しています。次に、その下の「公認キャンプ地PRピンバッジ」ですが、このデザインは、大会の開催都市と公認チームキャンプ地の都市だけに認められたもので、1,000個作成し、関係者に配付しております。次に13ページをご覧ください。「発送用封筒」については、大(10,000部)・中(30,000部)の2種類のサイズを作成し、資料の配布時や、文書発送先へのPRを行っております。その右横の「公認キャンプ地PR名刺」についてですが、作成に当たり、市民への配布用台紙も検討しましたが、組織委員会のガイドラインにある「大会のロゴマークは、一般企業名と関連付けて使用できない」という規程があることから、市職員の名刺によるPRに限定することとしました。次に、その下の「フィジー代表歓迎用 装飾展示」については、女満別空港到着ロビーに、大型パネルと吊り下げバナーを設置し、PRを行っております。次の、「ホームページによる代表合宿PR」では、公式サイトのトップページにバナーを設定し、ラグビーワールドカップに係る情報や市の取り組みなどについて、掲載しています。次にその下の、「公認キャンプ地・事前キャンプ地のPRパネル展示」では、エコーセンターで行われました「市民新年交礼会」、及び「成人式」の開催に合わせ、パネル展示を行いました。次に14ページをご覧ください。「流氷祭り会場でのラグビーWCブース開設」では、流氷祭り会場において、網走市ラグビーフットボール協会による「代表チーム

のパネル展」や「チラシ配布」が行われ、市は、展示パネルや、代表チームのユニホーム、のぼり旗等のPR用グッズの貸出や横断幕、配布用チラシの製作などの協力を行いました。その下、「流氷祭り 雪像製作」では、網走市ラグビーフットボール協会らによる雪像が2基作られ、RWCのPRがされました。次に「これからの取り組み計画」について、ご説明をいたします。資料の10ページをご覧ください。まず、①の「両代表チーム受入のための施設整備」についてですが、組織委員会のガイドラインに沿って、合宿受入に係る整備を行うこととしています。施設整備に関しては、「トレーニングルーム」と「チームルーム」については仮設による整備、トレーニングルームに配置する器具は、レンタルによる整備を行います。これらの整備については、近日中に入札発注を行う予定です。その他、メディアルームの整備及び、練習環境整備等を行います。その下、②の周知用品目については、引き続き、記載している項目により周知活動を行う計画としています。次の③の歓迎セレモニーでは、代表チームの来網時に、空港又はホテルでの歓迎セレモニーを実施するほか、組織委員会主催のフィジー代表のウェルカムセレモニーの対応を行います。その下、④の交流事業では、「学校給食などによるフィジーの食・文化交流」や、「フィジー国駐日大使による講演会」、「代表選手との交流」などを計画しています。次の⑤の「両代表チームの応援」では、札幌や大阪での試合会場での応援や、パブリックビューイングを計画しています。その他、代表チームの受け入れに当たっては、市民の大会開催に向けた機運を高めるため、様々な取り組みを、関係団体と連携を図りながら進めて行くこととしています。ラグビーワールドカップのキャンプ受入についての説明は以上です。

三島教育長

今、説明ありましたように様々な取り組みをおこなっておりますが、まだまだ周知不足と思われる、市民への認知度が上がってないと感じます。フィジーがどこにあるのかとか、どういった国かといった事も含め、更にいろいろな場面で周知していきたいと考えております。

杉本委員

市民に周知されていないといった部分は、私も同感です。何かしら関わりのある方は、少しは知っているので、そういった所の強化から始めてはと思います。例えば、網小のタグラグビーは、全国まで行ってますので、その関係の保護者ですとか、フットボール協会も一緒に網走市として盛り上がりたと思います。先日、出張で大分に行きましたところ、大分にもフィジーが来ることを知りました。大分でもどんな事をするのかといった情報交換もして大分も網走も盛り上がりたいたいです。

益村委員

名刺等での宣伝も先ほど紹介されていましたが、民間企業において、ロゴを使ってPRとかは、難しいものなのではないでしょうか。

鈴木スポーツ課長 ラクビーの組織委員会における運営となりますが、スポンサーと使用ロゴの関係が厳密であり、名刺等についても全て申請をしての許可となり、厳しいと思います。

三島教育長 ロゴの使用等、しぼりは、かなり厳しいですが、例えば、ロゴを使用せずに、「フィジーを応援しよう」といった文言であれば、どうだろうとか、何かいい方法での応援を事務局で考えております。

益村委員 まさにそのとおりで、市内宣伝のみならず、外に出る業界の方も多いでしょうから、市外への宣伝もできるような、なにかいい知恵があれば言っていただければ、情報を広げるお手伝いもできると考えております。

水谷市長 みなさん、何か応援したいと思っても、しぼりもあり、方法がわからないといった感じですが、そこは、事務局で工夫をして、周知していただければと思います。6月の中旬には、フィジーの大使がご来網される予定もあります。事務局を中心に教育委員会として頑張っていただけますようよろしくお願いいたします。

それでは、協議事項4についてよろしいでしょうか。

(「よろしいです」との声)

他になれば、以上をもちまして第1回網走市総合教育会議を閉会させていただきます。ありがとうございました。

【会議終了 16時30分】